

2024年産 水稲栽培のしおり

香川県農業協同組合中讃管農センター (綾坂用)
香川県中讃農業改良普及センター (監修)

品質食味向上を図り、安全で安心な売れる米を作しましょう

病害虫の発生状況については
最新の香川県病害虫防除所の
ホームページをご覧ください。



○ 環境への配慮

- ① 稲わら、麦わら等は焼かずにすき込み、堆きゅう肥等の施用により土づくりに努めましょう。
- ② 農薬散布の際は、周辺環境に被害を及ぼすことがないように飛散防止対策を講じましょう。

○ 品質・食味の向上

- ① 近年、平均気温が上昇していますので、播種、田植時期は生育管理の目安に準じて行いましょう。
- ② 地力に応じた施肥に努め、特に穂肥は草姿、葉色、品種特性に合わせた適期、適量の施肥を行いましょ。
- ③ 生育期間を通じて間断灌水を行い、適正な水管理に努めましょ。
- ④ 必須防除の徹底と病害虫の発生状況に応じて確認防除を実施ましょ。
- ⑤ 収穫前には異品種の混入を回避するため、コンバイン、乾燥機等の清掃を徹底ましょ。
- ⑥ 品質・食味を落とさないよう籾黄変率85%程度の時に収穫し、収穫後3時間以内に乾燥作業を行いましょ。

○ JA香川米への取組み

消費者から信頼され、売れる米づくりのため、下記の要件を満たしたJA香川米の生産に取組みましょ。

- ① 銘柄が確認された種子 (毎年、種子更新100%) により生産・出荷されたお米
- ② 栽培基準が守られている事が栽培履歴書により確認されたお米 (収穫15日前までに各支店・ふれあいセンターへ栽培履歴書を提出して下さい)
- ③ JA香川県で農産物検査を受けたお米

※「おいでまい」は、県公募と綾川町推進地域を対象として、栽培しおりは別業とします。
※「あきさかり」の栽培しおりは別業とします。

1. 生育・管理の目安 (品種選定は、別紙「香川県水稲主要品種の特性と作付方向」を参考としましょ。)

地域名	品種名	作型	播種	田植え	初期除草剤散布 (田植～7日後)	間断灌水開始 (田植15日後)	中干し期間 (田植25日後頃～出穂25日前頃)	穂肥施用 (出穂18-16日前)	灌水開始 (出穂15日前)	本田防除1回目(いずれか)		出穂期	本田防除2回目		間断灌水開始 (出穂後15日)	落水期 (収穫7日前)	成熟期
										ゴウケツモンスター粒剤 (出穂20～15日前迄)	ダブルカットバリダフロアブル (出穂3日前～出穂直前) スタークル顆粒水溶剤 (混合散布)		(スタークル粒剤) (出穂10～20日後)	(出穂後15日)			
綾歌南部	コシヒカリ	早期	4/6	5/5	5/5～5/12	5/20	6/4～6/28	7/7	7/8	7/3～7/8	7/20～7/22	7/23	8/2～8/12	8/7	8/17	8/24	
		短期	4/16	5/15	5/15～5/22	5/30	6/14～7/5	7/13	7/14	7/9～7/14	7/26～7/28	7/29	8/8～8/18	8/13	8/23	8/30	
	ヒノヒカリ	5/6	5/30	5/30～6/6	6/14	6/26～7/16	7/22	7/23	7/18～7/23	8/4～8/6	8/7	8/17～8/27	8/22	9/3	9/10		
		5/26	6/15	6/15～6/22	6/30	7/10～7/24	7/30	7/31	7/25～7/30	8/12～8/14	8/15	8/25～9/4	8/30	9/14	9/21		
クレナイモチ	6/1	6/20	6/20～6/27	7/5	7/15～7/28	8/9	8/12	8/7～8/12	8/24～8/26	8/27	9/6～9/16	9/12	9/30	10/7			
クレナイモチ	5/26	6/15	6/15～6/22	6/30	7/10～7/29	8/10	8/13	8/8～8/13	8/25～8/27	8/28	9/7～9/17	9/12	10/5	10/12			
坂出	コシヒカリ	短期	6/1	6/20	6/20～6/27	7/5	7/15～7/21	7/30	7/31	7/25～7/30	8/12～8/14	8/15	8/25～9/4	8/30	9/13	9/20	
	ヒノヒカリ	6/6	6/25	6/25～7/2	7/10	7/20～8/4	8/9	8/12	8/7～8/12	8/24～8/26	8/27	9/6～9/16	9/12	9/30	10/7		
	クレナイモチ	5/29	6/18	6/18～6/25	7/3	7/13～8/3	8/10	8/13	8/8～8/13	8/25～8/27	8/28	9/7～9/17	9/12	10/5	10/12		
水の必要度/水の深さ																	
品種名及び作業日																	

※中干しの開始及び終了時期、期間を守りましょ。(亀裂の程度 中干しは10ミリまで) また、強い中干しは収量・品質を低下させましょので注意ましょ。

2. 施肥基準

1) 基肥+穂肥の施肥基準

コシヒカリ (早期栽培 5月15日までの田植) kg/10a				
肥料名	全量	基肥	穂肥 (出穂16日前)	成分量
コシツータッチ	52	32	20	N 5.2 P 5.2 K 5.2
コシヒカリ (短期栽培 5月16日以降の田植) kg/10a				
肥料名	全量	基肥	穂肥 (出穂16日前)	成分量
コシツータッチ	44	24	20	N 4.4 P 4.4 K 4.4
ヒノヒカリ kg/10a				
肥料名	全量	基肥	穂肥 (出穂18日前)	成分量
スーパーブレンドLP40	53	28	25	N 7.4 P 7.4 K 7.4

2) 基肥一発の施肥基準

コシヒカリ (早期栽培 5月15日までの田植) kg/10a				
肥料名	全量(基肥)	成分量		
コシ一発J	45	N 4.5 P 4.5 K 4.5		
コシヒカリ (短期栽培 5月16日以降の田植) kg/10a				
肥料名	全量(基肥)	成分量		
コシ一発J	40	N4.0 4.0※ P4.0 4.0※ K4.0 4.0※		
Jコート777	24※			
ヒノヒカリ kg/10a				
肥料名	全量(基肥)	成分量		
さぬきの米一発(J)	35	N7.0 7.0※ P4.2 3.5※ K4.2 4.2※		
中生一発(J)	35※			

3) 土壌改良資材

資材名	全量(基肥) kg/10a
ユーキ鉄ケイカル	100
苦土一番	40
けい酸加里	30～40

本田施肥上の注意事項

- ① 手振り場合は、基肥を1割増肥する。
 - ② 基肥一発施肥は基肥のみの施用になるので、散布ムラのないよう注意する。また、穂肥は施用しない。
 - ③ 基肥は地力、前作物の状態によって、穂肥は生育や気象状況によって、加減して過剰施肥を避ける。
 - ④ 全品種とも、土づくりのため、荒起こし時にユーキ鉄ケイカルまたは苦土一番を施用する。
 - ⑤ 苦土一番、けい酸加里の施用時期は、基肥、追肥 (出穂30～40日前) いずれの施用でも良い。
- ※水田では、肥料成分溶出後の被膜が浮上することがありますので、被膜を圃場外へ流出させないように注意して下さい。

3. 雑草防除基準

区分	使用時期 (推奨)	対象雑草名	除草剤名	使用基準 (登録内容)			注意事項	品種及び使用月日	
				10a当り使用量	使用時期	使用回数		月	日
初期除草剤	移植後～9日	水田一年生雑草 マツバイ	カチボシLジャンボ	30g×10個 (300g)	移植後～ノビエ25葉期 ただし、移植後30日まで	1回	① 散布後3～4日は水深3～5cmを保ち、1週間は落水やかけ流しをしない。	月	日
	移植後～9日	ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ アオミドロ 藻類 による表層剥離	ジェイソウルフロアブル	500ml	移植後～ノビエ25葉期 ただし、移植後30日まで	1回	② 藻や浮草が発生している水田では、拡散効果が低下し、薬害や効果不良のおそれがあるので、使用しない。		
	移植時又は移植後～9日		ラオウ1キロ粒剤	1kg	移植時又は移植後～ノビエ25葉期 ただし、移植後30日まで	1回	③ 移植時処理は、田植機に専用散布機を装着した場合に限る。		
中期除草剤	移植後7日～ノビエ3葉期まで	ノビエ キシュウズズメノヒエ アゼガヤ	クリンチャー1キロ粒剤	1kg	移植後7日～ノビエ4葉期 ただし、収穫30日前まで	2回以内	④ 落水して手まき又は散粒機等で均一に散布する。	月	日
	移植後20日～ノビエ3葉期まで	マツバイ ホタルイ クログロイ ミズガヤツリ ウリカワ	セカンドショットSジャンボMX	25g×20個 (500g)	移植後20日～ノビエ3葉期 ただし、収穫45日前まで	1回	⑤ 落水状態で10a/20個を均一に投げ込む。		
	移植後20日～ノビエ4葉期まで (落水後処理)	水田一年生雑草 マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミズガヤツリ オモダカ キシュウズズメノヒエ	クリンチャーバスマE液剤	1000ml	移植後15日～ノビエ5葉期 ただし、収穫50日前まで	2回以内	⑥ 落水してから散布し、その後3日間は入水しない。		
発生始期～盛期	移植後20日～30日 (落水後処理)	水田一年生雑草(イネ科除く) ホタルイ、マツバイ ウリカワ ミズガヤツリ オモダカ	バサグラン粒剤	3～4kg	移植後15日～55日 ただし、収穫60日前まで	1回	⑦ クリンチャー1キロ粒剤とあわせて3回以内の使用とする。	月	日
		ウキサケ類 藻	モゲトン粒剤	2～3kg	発生始期～盛期 ただし、収穫45日前まで	3回以内	⑧ パサグラン粒剤とあわせて2回以内の使用とする。		

◆ 倒伏軽減剤

使用時期	農薬名	使用基準 (登録内容)			注意事項	品種及び使用月日	
		10a当り使用量	使用時期	回数		月	日
出穂25～10日前	ロミカ粒剤	2～3kg	出穂25～10日前	1回	① 落水処理とし散布量を厳守し均一に散布する。	月	日
					② 当剤を使用した水田の土壌を野菜類の育苗用床土にしない。		

4. 病害虫防除基準

1) 必須防除

防除時期	対象病害虫名	農薬名	使用基準 (登録内容)			注意事項	品種及び使用月日		
			消毒時間	希釈倍数	使用時期		回数	月	日
浸種前	ばか苗病、いもち病 もみ枯細菌病 褐条病、こま葉枯病	テクリードCフロアブル	24時間	200倍 (水10ℓに50ml)	浸種前	1回	① 乾燥剤と同量～2倍量の薬液に24時間浸漬する。	月	日
	心枯線虫病	スミチオン乳剤		1000倍 (水10ℓに10ml)	播種前	1回	② 消毒後は種子を水洗いせずに浸漬する。	月	日
					③ 消毒後の薬液は用水などに流さない。			月	日

育苗期の防除

対象病害虫名	農薬名	使用基準 (登録内容)			注意事項	品種及び使用月日		
		希釈倍数	1箱当り使用量	使用時期		回数	月	日
ピシウム菌 フザリウム菌	タチガレエースM液剤	500～1000倍 (水10ℓに20～10ml)	希釈液を500ml灌注	播種時又は発芽後	1回	① 播種量の多い条件では苗が伸びすぎることがある。	月	日
トリコデルマ菌 フザリウム菌 リゾプス菌	ダコレート水和剤	400～600倍 (水10ℓに25～166g)	希釈液を500ml灌注	播種時～緑化期	2回以内	② 発芽後に使用する場合は1000倍希釈液を1箱当り500ml灌注する。	月	日
						③ 播種14日後までに使用する。	月	日
						④ タチガレエースM液剤、同粉剤を使用した場合は、必ず使用間隔を3日以上あける。	月	日

育苗箱防除

防除時期	使用地域	対象病害虫名	農薬名	使用基準 (登録内容)			注意事項	品種及び使用月日	
				1箱当り使用量	使用時期	回数		月	日
田植当日	いもち病 多発地域	いもち病、ウナカ類 ツマグロコバエ	Dr.オリゼスタークル箱粒剤	50g	緑化期～移植当日	1回	① 老化苗、軟弱徒長苗、葉萎がみられるときは葉害のおそれがあるので使用しない。	月	日
		いもち病、紋枯病 ウナカ類 コフメイガ ツマグロコバエ	ビルダーフェルテラチエスGTX粒剤	50g	② 葉葉に付着した薬剤は、払い落としして移植する。				
		いもち病、紋枯病 ウナカ類 コフメイガ イネツトムシ	スクアレスモンガルス箱粒剤	50g	③ 移植後は直ちに入水し株元の土が露出しないようにする。				

※「水稲育苗のしおり」を参考に施用する。

本田防除

防除時期	対象病害虫名	農薬名	使用基準 (登録内容)			注意事項	品種及び使用月日			
			10a当り使用量	使用時期	回数		月	日		
いづれか	出穂20～15日前	いもち病、紋枯病 ウナカ類、カメムシ類	ゴウケツモンスター粒剤	3kg	収穫45日前まで	1回	① 3cm以上の灌水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。	月	日	
		ワイドバンチ豆つぶ	250g	収穫35日前まで	1回					
		ダブルカットバリダフロアブル※	1000倍 60～200ℓ	穂揃期まで	2回以内					② ていねいに散布し隣接ほ場に飛散しないよう注意する。
いづれか	出穂後10～20日	カメムシ類 ツマグロコバエ	スタークル粒剤	3kg	収穫7日前まで	3回以内	① 粒剤は3cm以上の灌水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。	月	日	
			スタークル顆粒水溶剤	2000倍 60～150ℓ						② 水溶剤は、ていねいに散布し隣接ほ場に飛散しないよう注意する。
			スタークル豆つぶ	250g						③ ゴウケツモンスター粒剤を使用した場合は、粒剤・水溶剤あわせて2回以内の使用回数とする。
						④ 斑点米の発生を防ぐため、必須防除とする。				

※出穂前にダブルカットバリダフロアブルとスタークル顆粒水溶剤の混用散布を行う。

2) 確認防除

防除時期	対象病害虫名	農薬名	使用基準 (登録内容)			注意事項	品種及び使用月日	
			10a当り使用量	使用時期	回数		月	日
移植後	スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	スクミリンゴ	1～4kg	収穫60日前まで	2回以内	① 移植後、スクミリンゴガイを確認したら直ちに散布する。	月	日
		ジャンボたにくん	1～2kg	散布時には、あわせて2回以内の使用とする。				
穂ばらみ期～穂揃期	紋枯病 こうじ病	モンガリット粒剤	3～4kg	収穫30日前まで	2回以内	① 3cm以上の灌水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。	月	日
7月中旬～8月上旬	コフメイガ イネツトムシ	バダン粒剤4	3～4kg	収穫30日前まで	6回以内	① 3cm以上の灌水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。	月	日
葉いもち 初発10日前～初発時	いもち病	コラトフ豆つぶ	250g	出穂5日前まで	2回以内	① コラトフ豆つぶは、3cm以上の灌水状態で均一に散布し、散布後1週間は落水やかけ流しをしない。	月	日
		ブラシフロアブル	1000倍	収穫7日前まで				

※ここの病の液剤処理はブラシフロアブル1000倍にて行う。